

# 地震に備える



「天災は忘れたころにやってくる」といわれますが、最近では、平成十九年七月に新潟県中越沖地震が起き、多くの被害が出たのは記憶に新しいところですが、また、あと三十年以内かなりの確率で南海地震が発生するといわれています。地震の被害を最小限に抑えるために、日ごろの備えが大切になってきます。

## 本番をながらに防災訓練

九月二日、「地域のみんな  
で防災訓練」と銘打った訓練  
が、防災週間（八月三十日～  
九月五日）に合わせ、県内一  
斉に行われました。

町においても、用居（池川）、  
大崎（吾川）、長者（仁淀）  
の三地域で、地域の住民の方  
を始め、高吾北消防署、町消  
防団、行政関係者ら約六百四  
十人が参加し、南海地震を想  
定した避難訓練や消火活動な  
ど、本番をながらに訓練が行  
われました。

午前八時に地震発生。土砂  
災害などにより各地域が孤立  
し、電話、電気などのライフ  
ラインも切断され、消防無線

だけが使用できるとの想定  
で、まず役場本庁に災害対策  
本部が設置されました。



火点に向けて放水（用居）

負傷者の救助訓練（用居）



災害対策本部から住民に避  
難勧告を発令、消防団員が住  
民を避難所に誘導したり、負  
傷者を担架や車いすなどで救  
助したりしました。避難所では、避難してきた住民が、消防署員から、負傷者に対する応急処置の方法や、消火器による初期消火の方法などについて指導を受けました。

続いて地震により火災が発生、消火栓・防火水槽が使えないという設定で、消防団員が河川などの自然水利から、千鈞前後離れた火災現場まで、小型ポンプを中継し消火活動を行いました。

中継放水（長者）



また、各地域で婦人防火クラブなどが早朝から炊き出し訓練を行いました。

今後、南海地震や台風などによる災害で、地域における大きな役割を担うのは、消防団と地元自主防災組織になります。

現在、町内の自主防災組織は、七つの組織があります。さらに各地域の自主防災組織の立ち上げ100%を目指し、勉強会などを行っていますので、関心のある地区は、お気軽に総務課までご連絡ください。

総務課 ☎ 35・0111

応急処置の講習（大崎）



初期消火の講習（長者）



# 子ども防災キャンプ

森山地区

平成十九年八月二十五日、二十六日にかけて、森山地区農村公園において、子ども防災キャンプが行われました。子ども防災キャンプは森山地区（区長掛水笑子）の主催で、昨年七月に発足した自主防災組織の取り組みとして以前より計画していたものです。

当日は、虫送り行事や夕涼み会も合わせて行われたため、地区内外から約六十人が参加し盛大に行われました。子ども防災キャンプでは、災害時の避難生活を親子で体験



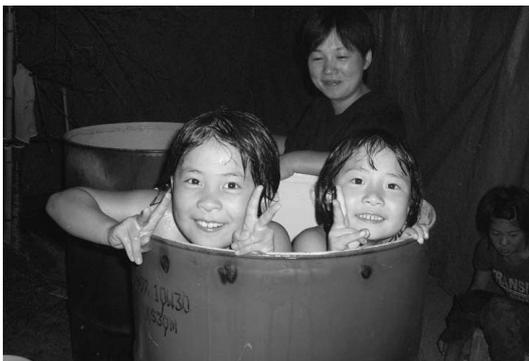
仮設風呂の準備

し、実際の避難生活に備えることを目的とし、四世帯十七人が前日からグラウンドにテントを張ったり、消防の水のうやドラム缶を利用した仮設風呂などを体験したりしました。仮設風呂体験では、当初水道水を沸かす予定でしたが、町産業建設課の計らいで、中津溪谷ゆめ森に使用している冷泉をタンクローリー車で運搬。突然の出来事に大人も子どもも喜んでいました。

また、夕方四時からは数年前から復活した虫送り行事が行われ、地域内を練り歩きました。その後、農村公園において森山地区女性なんでもクラブや、フレッシュヤングが夜店を出し、お祭り形式での夕涼み会が行われました。

夕涼み会の開会式には、県の地震防災課の森本剛正さんや、森山地区防災マップ作りに地質調査員として参加している吉村典宏さんからあいさつがあり、防災グッズの紹介などもしていただきました。

今回の自主防災の取り組みは、今までの中で一番大きな行事となりましたが、虫送りをはじめ、水泳（宝探しなど）やスイカ割り、花火などのお楽しみ行事も盛り込んだため、子どもからお年寄りまでが幅広く参加できた夏の行事となりました。参加した子どもたちからは、「楽しかった」「お風呂がよかった」などの感想が聞かれました。また、夜店を出した女性なんでもクラブやフレッシュヤングのスタッフからも「ほとんど完売した」と初めての夜店出店に一応の達成感を感じているようです。



いい湯だな

## 防災情報

### 「備えあれば憂い無し」

地震に備え被害を最小限にするために、住民の皆様には、自宅の耐震補強や家具の転倒防止、非常用の水や食料の備蓄、避難経路・避難場所の確認など、「自分の命は自分で守る」（自助）や「隣近所で助け合う」（共助）の取り組みを行っていくことが大切です。そこで自宅で出来る防災対策の一例を紹介します。

#### ★非常用持ち出し品（避難時に持ち出す物）

ヘルメット・防災頭巾、運動靴、懐中電灯、携帯ラジオ、予備電池、現金、貴重品等

#### ★備蓄品（避難生活に備えて家に蓄えておく物）

飲料水、食料等 ※3日分以上の備蓄が必要！



#### ★ガラスの飛散防止

ガラスが飛び散らないようにガラスにフィルムを貼ります。

#### ★家具転倒防止

タンスやテレビ、食器棚等が転倒するのを防止します。

#### ★住宅の耐震補強

#### ★避難経路・避難場所等の確認

この他にもたくさん防災対策はあると思われます。ぜひ一度ご家族・地域で防災対策について話し合ってみてはどうでしょうか？

◆高吾北消防署 ☎26-2111 ◆仁淀川分署 ☎35-0017

# 平成18年度一般会計歳出決算75億円

## 前年対比11%の減 人件費は2億7千万円の減

### 自主財源は四分の一

平成十八年度一般会計決算は歳入歳出とも前年度と比べ十一%の減となっています。

また、平成十八年度は、仁淀川町になって初めて一年間を通した決算になります。

歳入決算は、七十八億一千六百万円のうち、町が自前で調達できるお金(自主財源)は二十億三千九百万円で全体の約四分の一しかありません。残りは、国や県から交付されるお金(依存財源)が約四分の三を占めますが、その内、地方交付税が歳入全体の四十六%を占めています。しかし国からの補助金、交付金の削減、経済の低迷による税収減、少子高齢化を背景とした歳出増加により、地方の財政は火の車になっています。

### 合併効果表れ始める

議員数の減、職員の退職時の採用の抑制などにより人件費が前年比十九%の減で、町村合併による歳出の抑制効果がでてきています。しかし歳入の確保が難しくなっていますので、徹底した行政改革を進め、基盤整備や福祉の充実など真に必要な行政サービスが可能な財政構造を構築していく必要があります。

(歳入)

(単位：千円)

区分	H18年度	H17年度	増減額	
自主財源	地方税	558,463	553,071	5,392
	分担金及び負担金	12,907	16,116	△3,209
	使用料及び手数料	96,488	96,644	△156
	繰入金	208,548	597,128	△388,580
	繰越金	360,043	551,420	△191,377
	諸収入・その他	802,851	95,221	707,630
	小計	2,039,300	1,909,600	129,700
依存財源	地方交付税	3,636,221	3,868,305	△232,084
	国県支出金	1,326,171	2,040,381	△714,210
	譲与税・交付金	289,154	275,921	13,233
	地方債	525,500	689,000	△163,500
	小計	5,777,046	6,873,607	△1,096,561
合計	7,816,346	8,783,207	△966,861	

### ◆主な歳入の増減理由◆

#### ○諸収入

バイオマス実験事業の本格化により737,319千円増となり大幅に増加しています。

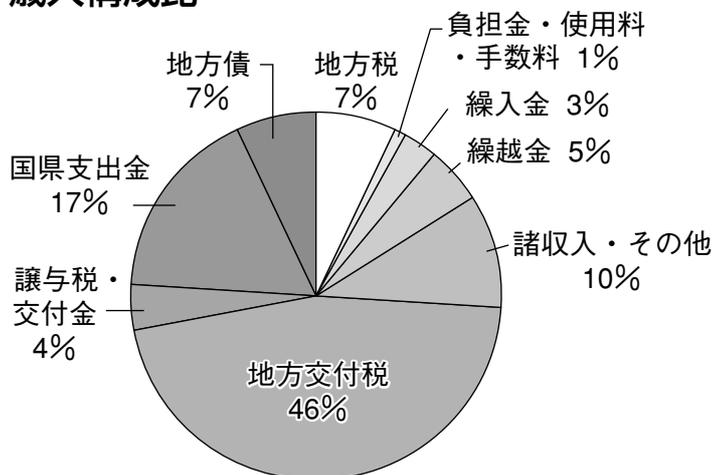
#### ○地方交付税

普通交付税は国勢調査の人口減などにより95,785千円の減で、特別交付税は、災害復旧費の減や合併による特別措置分などの減により136,299千円の減となっています。

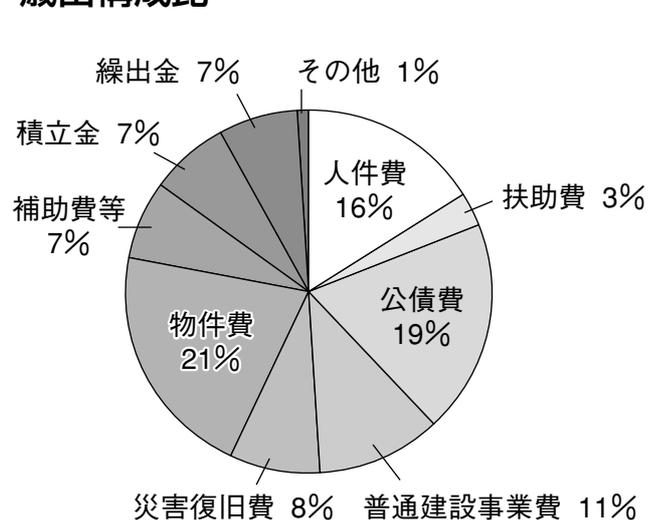
#### ○国県支出金

災害復旧の補助金、林道整備の補助金、国土調査の補助金の減などにより減少しています。

### 歳入構成比



### 歳出構成比



# 歳出決算（性質別）

## 義務的経費

（単位：千円）

区分	H18年度	増減額
人件費	1,174,380	△274,901
公債費	1,393,241	△220,098
扶助費	224,898	△7,690
合計	2,792,519	△502,689



### 人件費

議員定数の減、職員の退職不補充による職員数の減等により大幅に人件費が削減されています。

## 投資的経費

（単位：千円）

区分	H18年度	増減額
普通建設事業費	811,519	△521,347
災害復旧費	598,272	△505,555
合計	1,409,791	△1,026,902



### 普通建設事業費

平成17年度の繰越分を含めた森林管理道、町道改良事業の終了や事業費削減により減少しています。

## その他の経費

（単位：千円）

区分	H18年度	増減額
物件費	1,632,527	448,246
補助費等	532,340	△101,683
繰出金	536,614	△62,494
積立金	523,727	306,978
維持補修費	70,664	15,552
投資/出資金・貸付金	170	△2,120
合計	3,296,042	604,479



### 物件費

主にバイオマス実験事業の委託により大幅に増加しています。



### 補助費等

介護公社の運営補助金、高吾北広域町村事務組合への負担金の減や補助金の見直しなどにより減少しています。

# ¥¥ 特別会計の決算 ¥¥

### 国保会計



歳入 10億 4,893 万円  
歳出 10億 4,257 万円

### 国保大崎診療所会計



歳入 2億 3,363 万円  
歳出 2億 3,314 万円

### 老人保健会計



歳入 17億 8,161 万円  
歳出 17億 7,584 万円

### 介護保険会計



歳入 11億 1,370 万円  
歳出 10億 6,749 万円

### 簡易水道会計



歳入 2億 1,069 万円  
歳出 2億 448 万円

### 農業集落排水会計



歳入 7,369 万円  
歳出 5,773 万円

# 歳出決算（目的別）と主要な事業

平成18年度の主な事業をご紹介します。

〇〇費の下の金額は  
平成18年度決算額（前年度との比較）

## 商工費

1億4,423万円(△5,499万円)



### 中津歩道橋整備事業 (2,889万円)

17年度からの繰越事業で中津溪谷の入口に28.5メートルの歩道橋を整備しました。

## 土木費

2億7,731万円(△1億3,875万円)



### 町道宗津線改良事業 (3,824万円)

17年度からの繰越事業で幅員5メートル、延長80メートルを整備しました。

## 消防費

2億3,821万円(△8,621万円)



### 消防小型ポンプ購入 (693万円)

池川・森・長者・高瀬の各分団の小型ポンプを更新し、消防力の強化を図りました。

## 教育費

4億4,268万円(△1,339万円)



### 名野川小校舎耐震補強工事 (5,410万円)

地震に備え、子どもたちが安心して学べるように補強をしました。

## 災害復旧費

5億9,827万円(△5億555万円)

## 公債費

13億9,324万円(△2億2,010万円)

## 議会費

5,202万円(△7,467万円)



### 議会運営費

(5,202万円)

議員、職員の人件費を含めた総額です。議員数の減により大幅に減少しました。

## 総務費

16億3,047万円(△1億9,324万円)



### 電算費

(5,675万円)

電算システムや本庁や各支所を結ぶ通信回線費などの総額です。

## 民生費

10億4,277万円(△5,900万円)



### 保育所運営費

(1億3,542万円)

町営の4箇所の保育所の運営に要する職員の人件費を含めた総額です。

## 衛生費

3億2,948万円(△5,339万円)



### 西谷飲料水供給施設改良工事

(671万円)

配水池1基、導水管を1,032メートル整備しました。

## 農林水産業費

13億4,967万円(4億7,418万円)



### バイオマス実験事業

(7億4,300万円)

木くずや間伐材などの森林資源を発電や燃料に活用するための実験事業です。

# 受け継がれる伝統行事と伝説



吉永 強さん

**百万遍**  
 集落に詳しい吉永強さんによると、毎年二月十四日に、桂と交代で百万遍を行っているそうです。全員輪になり数珠を繰りながら、集落の安全を祈願する、古くから続く大事な行事になっています。

「写真が語る仁淀村」より  
 百万遍の様子



**左近の武勇伝**  
 文治の昔、左近という人が、安徳天皇の見張り番役を高瀬本村で務めていました。左近は武勇に富み、物に動じない人でした。ある日、左近の目の前に虎狼という猛獣が現れ、左近は一矢を放ち仕留めました。それからというものの、虎狼の祟りが度々起こったため、白王八幡と称して祭りました。その後何事も起こらず、村は益々繁栄したということです。白王八幡は今の八幡宮神社であり、左近の霊も「左近様」として八幡宮境内にお祭りされています。

八幡宮境内に祭られている  
 左近様



八幡宮神社



# 集落見聞録

(第23回)

たか せ ほん むら

# 高瀬本村

## 茶霧湖を眼下に望む良質茶の産地

高瀬本村は、仁淀総合支所から車で約10分。8月末現在55世帯、68人の集落です。

藩政時代高瀬村における政治、経済、交通の中心地であったため、本村と呼んできたことが地名の由来となったそうです。

茶栽培の適地であり、養蚕の衰退とともに茶が熱心に植栽されるようになりました。加えて大渡ダム completionにより、集落の直下に茶霧湖ができ、その名のとおり気温の低い日には多量の霧が発生する、良質茶の産地となっています。



高瀬本村集落

